

# 強者の戦略

こんにちは。日本史の岡上です。風が冷たく感じられる季節になりましたね。もうすぐ冬本番。受験の対策は着々と進んでいますか？センター試験対策も二次試験対策も偏ることなく、堅実に頑張ってくださいと思います。

さて今回は「江戸時代半ば以降における農村の休日」についての問題でした。正直「休日」といわれても、ほとんどの受験生はピンとこなかったのではないのでしょうか。現代でも様々な「休日」がありますが、そもそも「休日」が設定されているのは何のためなのか。その意味を考えると少し不思議ですよ。今回の問題はそんな「休日」をテーマに社会のあり方を考えさせてくれる面白い問題でした。

とはいえ、どこから手をつければいいのか悩んだ人も多いはず。この手の問題は資料文を丁寧に読み取りながら、出題者が何を伝えようとしているのかを類推しながら解いていく必要があると思います。それでは解説を始めていきましょう。

## <江戸時代半ば以降における農村の休日>

### (1) 村ごとに休日が定められた理由

まずは設問Aからみていきましょう。

#### 設問

A 当時、村ごとに休日を定めたのはなぜか。村の性格や百姓・若者組のあり方に即して、3行以内で述べなさい。

設問Aで問われているのは、「**当時（＝江戸時代半ば以降）、村ごとに休日が定められた理由**」です。ただし、「**村の性格**」や「**百姓・若者組のあり方**」に即して考えることが条件となっています。

では最初に「村ごとに休日が定められた」に着目して資料文を読んでいきましょう。

(1) 村の定書を見ると、「休日」「<sup>やすみび</sup>遊日」と称して、正月・盆・五節句や諸神社の祭礼、田植え・<sup>あそび</sup>稲刈り明けのほか、多くの休日が定められている。その数は、村や地域によって様々だが、年間30～60日ほどである。

資料文(1)からは当時の休日の種類を読み取ることができます。

#### (A) 正月・盆・五節句や諸神社の祭礼

→年中行事などの祝祭日ですね。これは現代でも同じですね。

#### (B) 田植え・稲刈り明け

→農業における繁忙期の後。これは農村ならではのですね。

さらに資料文(1)には「～のほか、多くの休日が定められている」という表現があります。この休日の内容は資料文(3)から読み取ることができます。

# 強者の戦略

(3) ある村の名主の日記によると、若者が大勢で頻繁に押しかけてきて、臨時の休日を願い出ている。名主は、村役人の寄合を開き、それを拒んだり認めたりしている。

## (C) 臨時の休日

→「若者が大勢で頻繁に押しかけて」、「願い出て」、「村役人の寄合」によって認められた休日。

つまり、当時は大別すると(A)、(B)、(C)の3種類の休日があったことがわかります。

ところで、これらの休日は何故「村ごとに」定められたのでしょうか。そのヒントとなるのが、「村の性格や百姓・若者組のあり方に即して」という条件です。

まず「村の性格」について考えていきましょう。

「村の性格」については、資料文には詳細な記述は見当たりません。ですので、ここは普段の学習から得られる知識を使用する他はありませんね。例えば、教科書(山川出版社)には以下のような記述があります。

村は、百姓の家屋敷から構成される集落を中心に、田畑の耕地や野・山・浜をふくむ広い領域を持つ小社会(共同体)である。そこには、百姓の小経営と暮らしを支える自治的な組織があり…

村の運営は村法(村掟)にもとづいておこなわれ…

幕府や諸藩・旗本は、このような村の自治に依存して、はじめて年貢・諸役の割当てや収納を実現し、村民を掌握することができた。このような仕組みを村請制と呼ぶ。

このような記述を念頭におくと、

①村は百姓の小経営と暮らしを支える自治的な組織をもつ小社会(共同体)

②村の運営は村法(村掟)にもとづいておこなわれていた

③村請制を通じて、村は幕府支配の末端を担っている

と、このあたりを「村の性格」として指摘できればいいと思います。

次に「百姓のあり方」を考えていきます。「百姓のあり方」についても資料文にはこれといった記述はありません。ですので、また教科書から引用しますと、

(村では)入会地の共同利用、用水や山野の管理、治安や防災などの仕事が自主的に行われた

田植・稲刈り・脱穀・屋根葺などに際して、村民は結・もやいなどと呼ばれる共同作業を集中的に行って、労働や暮らしを支えあった

などの記述があります。先ほどの「村の性格」とあわせて考えても、当時の村が**百姓の生活の基盤となる共同体であり、その共同体を維持することが百姓にとって必要不可欠であった**といえます。

こうした観点から、それぞれの休日が定められた理由を考えてみると、(A)の休日は年中行事を通じて村の運営に欠かすことのできない共同意識を高めるものとして設定されており、また(B)の休日は農作業が共同で行われる実態に即して設定されたと考えることができます。

まとめると、**村として休日を定めることは百姓の生活の基盤となる村の共同意識を高めることであった**といえます。

最後に「若者組のあり方」ですが、若者組に関し

# 強者の戦略

ては逆に教科書に明記されていないところですから、資料文から読み取る他はありません。

(3) ある村の名主の日記によると、若者が大勢で頻繁に押しかけてきて、臨時の休日を願い出ている。名主は、村役人の寄合を開き、それを拒んだり認めたりしている。当時の若者は、総代や世話人を立て、強固な集団を作っており、若者組とよばれた。

資料文(3)からは、

- ①若者組は村役人に対して高圧的に要求を行っている
- ②若者組は自らリーダーを立てて、自立的な集団として活動している

ことが読み取れます。

(4) 若者組の会計帳簿をみると、支出の大半は祭礼関係であり、飲食費のほか、芝居の稽古をつけてくれた隣町の師匠へ謝礼を払ったり、近隣の村々での芝居・相撲興行に際して「花代」(祝い金)を出したりしている。

資料文(4)からは、

- ③若者組が祭礼やそれに伴う興行に深く関与している
- ④若者組は(自分の村だけでなく)近隣の村々との結びつきをもった集団である

ことが読み取れます。

これをもとに(C)の休日を考えてみましょう。若者組による高圧的な要求が村役人の寄合によって認められたのは何故でしょうか。それは村役人が村に必要な共同意識を高める祭礼やそれに伴う興行に関与する若者組の存在を重視していたことの流れといえるでしょう。しかし、注意しなければならないのは、村役人がいつでも若者組の圧力に屈して、その要求に応じたわけではなかったということです。

(資料文にも「それを拒んだり認めたり」と書いてありますね)。ここは類推するしかありませんが、おそらくあまりに不当な要求や村の秩序を乱すような要求については、村役人は拒否を表明しました。それは村役人が若者組をあくまで村の支配体制の枠内に組み込み、統御しようとしていたことの流れと考えることができます。

以上をまとめて、解答を作成しておきましょう。

## 【解答例】

A村にとって休日を定めることは、小経営の百姓の生活基盤となる村の共同意識を高めることであり、また祭礼・興行に深く関与する若者組を統御し、村の秩序を維持することであったから。(86字)

# 強者の戦略

(2) 幕府や藩が村人の「遊び」を規制した理由  
続いて設問 B です。

## 設問

B 幕府や藩は、18 世紀末になると、村人の「遊び」をより厳しく規制しようとした。それは、なにを危惧したのか。農村社会の変化を念頭において、2 行以内で述べなさい。

設問 B で問われているのは、「18 世紀末に幕府や藩が村人の「遊び」を厳しく規制しようとするにあたって危惧したこと」で、「農村社会の変化を念頭において」という条件がついています。まずは 18 世紀末の農村社会がどのように変化していたのかを確認しておきます。

18 世紀末といえば、農村において商品作物の生産が盛んに行われ、貨幣経済の浸透が起こった時代でした。そのなかで、一部の有力な百姓が田畑を集めて豪農に成長する一方で、田畑を失った小百姓が小作人となるなど、百姓の階層分化が広がっていきました。こうした村々では、自給自足的な社会のあり方が大きく変わり、村役人を兼ねる豪農と小百姓や小作人との間の対立が深まり、村方騒動が頻発するなど農村社会の秩序は揺らいでいました。また無宿人や博徒らによる治安の乱れも生じていました。

では次に、村人の「遊び」について考えましょう。資料文をみていきます。

(1) 村の定書を見ると、「休日」「遊日」と称して、正月・盆・五節句や諸神社の祭礼、田植え・稲刈り明けのほか、多くの休日が定められている。

資料文(1)では「休日」と「遊日」が並列して記述されています。つまり、「休日」に行われるのが「遊び」なのでしょう。ではその「遊び」の内容はどんなものなのでしょうか。

(2) 休日には、平日よりも贅沢な食事や酒、花火などを楽しんだほか、禁じられている博打に興じる者もいた。

(4) 若者組の会計帳簿をみると、支出の大半は祭礼関係であり、飲食費のほか、芝居の稽古をつけてくれた隣の師匠へ謝礼を払ったり、近隣の村々での芝居・相撲興行に際して「花代」(祝い金)を出したりしている。

資料文(2)(4)から、「遊び」の内容としては、

- ①平日よりも贅沢な食事や酒、花火などを楽しむ
- ②禁じられている博打に興じる
- ③隣の師匠から芝居の稽古をつけてもらう
- ④芝居・相撲興行を行う(観覧する)

が挙げられます。ではこれらの「遊び」を規制しようとするにあたって危惧されたことは何でしょうか。

①や④からは「遊び」という名目で、贅沢な生活が行われたことが分かります。その背景には貨幣経済の浸透があるわけですが、「花代」(祝い金)を出したりしている、という表現からも農村において貨幣が浸透していた様子がうかがえます)、それが農村社会の秩序を動揺させていたことは先述したとおりです。

そして、②からは「遊び」が博徒の横行による治安の悪化を引き起こす可能性があることが読み取れます。

③については「遊び」の内容というよりは、若者組の行動そのものについて危惧があったと考えるべきでしょう。設問 A でもみたように、若者組は村内において村役人に対し「大勢で頻繁に押しかけて」といった村方騒動のような行動を起こすだけでなく、「近隣の村々」とも繋がりをもっている自立的な集団でした。つまり、このような若者組が農村社

# 強者の戦略

会の秩序を動揺させる中核となりうる存在であったことを確認しておきましょう。

以上をまとめて解答を作成します。

## 【解答例】

B「遊び」は貨幣経済の浸透や博徒の横行、若者組の自立的な行動を誘発し、農村社会の秩序の動揺や治安の悪化が進むと危惧した。(60字)

さて、いつものように論述問題の解答はもちろん一つではありません。「これはどうだろうか?」「これではだめなのか?」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに!!